

NPO日本教育カウンセラー協会 会長

國分 康孝先生

(カウンセリングサイコロジスト Ph. D)

追悼文集

秋田県教育カウンセラー協会

NPO日本教育カウンセラー協会 会長 國分康孝先生が平成30年4月19日にご逝去されました。(享年87歳) 心よりご冥福をお祈り申し上げます。
(秋田県教育カウンセラー協会)

國分康孝先生と秋田県教育カウンセラー協会

2001年8月7日にNPO日本教育カウンセラー協会会長の國分康孝先生(参加者数201名)をお招きして、「**こころを育てるカウンセリングーその原理と方法ー**」をテーマに教育カウンセリング公開講演会を開催し、大好評裡に終了いたしました。また、クロード学習会では、哲学についてご講義いただきました。



そして、2003年4月19日に、満を持して日本教育カウンセラー協会秋田県支部が設立されました。

秋田支部の養成講座に何度も足を運ばれご講義いただきありがとうございます。質問にもきさくに明解に答えてくださいました。

謹んで先生のご逝去を悼み、生前の温かいご指導に対しまして深くお礼申し上げます。



日本教育カウンセラー協会秋田県支部
設立総会にて(2003年4月23日)

“おもしろくて ^{わかちあい} ためになる 学びの共有”

日本教育カウンセラー協会秋田県支部機関誌

教育カウンセラー あきた 創刊号

2003年（平成15年）4月20日発行

なぜ， 教育カウンセリングか



NPO 日本教育カウンセラー協会会長
國分 康孝
(カウンセリングサイコロジスト Ph.D)

なぜ私が，教育カウンセリングを全国に普及，定着させようとしているのか。それは，これまでの伝統的カウンセリングでは，十分に学校教育に役立つとはいえないからである。

それはこういうわけである。学校は教育機関であり，治療機関ではない。教師の仕事は子どもを育てることであり，治療することではない。ところが，伝統的カウンセリングは心理療法志向である。つまり，個室の中で一対一の面接を一回 50 分ずつ何回も重ねるという方法である。これでは学校教育になじみにくい。学校教育では，集団に対して能動的にかかわっていくカウンセリングでないと現実的ではない。

たとえば，構成的グループエンカウンター，河村茂雄（都留文科大学教授）のアンケートQ-Uを用いた学級経営，キャリアガイダンス，サイコエジュケーション，グループワーク（例；特別活動）などがそれである。

今の日本のスクール・カウンセリングは，「臨床心理士でなければスクール・カウンセラーになれない」という風潮を生み出している。私は，心理療法の専門家である臨床心理士が，教育の専門家である教師に助言するこの制度は，非現実的であると思っている。それゆえに，教育とカウンセリングの両方になじみのある教育者（これをとりあえず，「教育カウンセラー」と称している）が，学校のカウンセリング事業の主役でなければならないと主張したい。

私は，今，教育カウンセラーが全国に4万人誕生することを願っている。私のこの考えに賛同し，全国各地で教育カウンセラー協会の支部が設立されている。支部の誕生の仕方は様々である。秋田県支部の特徴は「slow but steady（遅々たれど着実な前進あり）」であったと思う。曾山和彦さんや阿部千春さんら，若い世代の準備が熟した頃，運よく私の世代の水戸谷貞夫先生（協会本部役員）が帰郷された。そして，支部長として，支部の超自我役を引き受けて下さった。協会としては，支部がひとつできるということは大変力強い出来事である。秋田県下で1000人，そして，全国で4万人の教育カウンセラーが輩出する日を私は指折り数えて待ちたい心境である。

2003年から2005年まで毎年、國分久子先生とともに教育カウンセラー養成講座でご講義いただきました。

2003年 4月24日 「教育カウンセリング概論」

2004年11月 7日 「教師のリーダーシップ」

2005年10月10日 「思考・感情・行動を育てる教育」

そして、2011年11月20日の 構成的グループエンカウンター 入門ワークショップ 秋田会場は、國分康孝先生、國分久子先生、そして片野智治先生（協会副会長）、吉田隆江先生（学会常任理事）、阿部千春先生（秋田県支部事務局長）で盛会に開催されました。



“おもしろくて ^{わかりあい} ためになる 学びの共有”

秋田県教育カウンセラー協会機関誌

教育カウンセラー **あきた**

第26号

2018年（平成30年）7月8日発行

お伝えしきれないほどの 感謝の気持ちをこめて

秋田県教育カウンセラー協会
事務局長 阿部 千春

國分康孝先生のご訃報に接し、あまりにも突然のことで受け止めるまでに長い時間がかかってしまいました。

1999年3月に大学院を修了し、今後の自分の生き方、あり方を模索していた時に出会ったのがSGEとQ-Uでした。2000年8月にSGEワークショップ（リーダー：藤川章先生）に参加させていただき、國分先生との温かいまなざしに見守られながら“person to person”で3日間かかわれたことは、感情をあまり表に出さなかった当時の私にとってかけがえのない貴重な体験となりました。私がまとめたSGEに関するレポートに國分康孝先生と片野智治先生が加筆修正されまして、2003年に冊子「SGEリーダーの常識」になった際には、SGEの根幹をしっかりと伝えたいと身の引き締まる思いになったことを覚えております。

國分康孝先生、そして村主英典氏（図書文化社前社長）には、自分の力だけではどうにもならない時などにご相談させていただいておりました。常に温かくも俯瞰的に中立的に把握しご助言をくださったこと、人としての生き方、あり方の肝要な指針、道標をお示しいただいたことにただただ感謝の念に堪えません。

2003年に秋田県支部の事務局長を拝命いたしました。折にふれて、國分先生からは「マネジメントはなかなかむづかしいものですが全体的にharmonyがありました。おかげさまで心おきなく講義に全力投入できました」など心から嬉しく、励みとなるフィードバックをいただきました。それが事務局長としても、一人の人間としても、大きな心の支えになっておりました。國分先生のご意志を受け継がせていただき、今後も参加された方にとって面白くて意味があり（meaningful）、役に立つ（useful）教育カウンセリングの事業を展開できるように努めてまいります。

これまでいただいたお言葉一つ一つに國分先生の確たる哲学を改めて感じております。偉大な心の師（great mentor）であり、常にsupportiveであった先生に出会えたことに深く感謝しつつ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌



國分先生へ 感謝をこめて

秋田県教育カウンセラー協会
理事 佐藤 さゆり

國分康孝先生、今ここに私を作ってくれていることに心より感謝します。先生、私は國分先生が大好きです。なぜならば、先生は私にとっての「歩く説得力」モデルだからです。学会や養成講座など、どんな場面での問いに対して、明快に答えられるあのかけこよさを、私は今でも忘れません。相手が知りたがっていることや、見えそうで見えない形になることも、やがては見えなくなるまで「なるほど！」と、霧がはれていく体験を与えてくれるように、私には見えませんでした。そのお姿を通して、これが「明確化」であることを示された気がして、向き合う相手に「なるほど！」の感覚を開くことは、相手が自分の力で自分の人生を選択し、一歩前へ進むための最高の後押しであると学びました。「説得力ある自分をめざす」という目標をいたる存在、本当に幸せです。大きな説得力のある私たちに立ってくださったあの日の國分先生のように、私も自分の人生を歩んでいきます。

先生、私は國分先生が大好きです。なぜならば、ゆるがないYou are O.K.を贈ってくださったからです。社会人になって間もないころ、片野智治先生のご縁により、國分先生ご夫妻の前で適応指導教室の実践にまついてお話をさせていただく機会をいただきました。不登校のこと、出会えた大切な子どもたちとのワネスの温度を語り終えた私に、先生と久子先生がたくさんO.K.を贈ってくださったことを私は一生忘れません。今、出会う子どもたちに対して惜しまないYou are O.K.を届けることができる自分があるのは、まちがいでなくあの日の先生からのYou are O.K.です。先生からいただいたこの心の温度は、これからも私の人生を豊かに歩ませてくれるものだと思います。

國分康孝先生、たくさんの光を注いでくださり、本当にありがとうございました。



尽きぬ感謝の気持ちをこめて

秋田県教育カウンセラー協会 事務局長 阿部 千春
(函館大谷短期大学 准教授)

このたび執筆させていただくにあたり、國分康孝先生よりいただいたお手紙やお葉書、FAX、また、秋田県支部名誉会長でありました水戸谷貞夫先生の追悼文「水戸谷貞夫代表の示唆するもの」(NPO 日本教育カウンセラー協会機関誌第 50 号)を改めてじっくり拝読させていただきました。

常に相手の立場に立って理解し、当を得たアセスメントのもと、細やかに温かいまなざしでサポートする姿勢や、真のリーダーとして、一人の人間としてあるべき姿について長きにわたり深く学ばせていただいたことに深く感謝しております。

秋田県支部は今年度で 15 周年を迎えますが、これまで細く長く継続できたのは、尊重し支え合うことができ、相手を和ませ、さり気なく気遣い合うことができる仲間が存在があったからだと思います。國分先生がおっしゃる「役割を越えた person としてのかかわり」があるといえ、今後も役員一人一人が明確な役割意識や目的意識、矜持をもって取り組んでいけるように、打てば響く事務局長をめざしてまいりたいと思っております。

帰りなん、いざ。(陶淵明「帰去来辞」)年数回の教育カウンセリング協会の活動の場が戻るところとなり、教育カウンセリングを通して、学びを共有することの喜びや元気、勇気となり、それがまた子どもたちの健全な発達や自立につながることを願っております。

國分先生に My student of SGE” と書いてくださったことを心に刻みつけ、國分先生のご意志を受け継がせていただき、安心して目を細められ微笑んで見守っていただけるように、支部の運営において、また自分自身の人生について、常に much better をめざし、さらに新しい局面を切り拓いていけるように努力してまいる所存であります。

偉大な心の師 (great mentor) である國分先生に出会えましたことに心より感謝しつつ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。合掌



これからの一步

秋田県教育カウンセラー協会 理事

佐藤 さゆ里

(横手市不登校適応指導「南かがやき教室」 教育相談員)

「実に私の人生とは、豊かな日々の連続だなあ。」

「あの日のあのことがあったおかげだなあ。」

気が付けばこんなことを、ふとしたときに、そして当たり前と感じられる人を送っていることに感謝しています。でもこの感覚は、昔から自分のそばにあったものではなかったと思うのです。これこそが、國分先生との出会いからいただき、自分の中でしっかりと根付いた「いま ここで」の感覚であると感じています。

私の人生は出会いに恵まれた幸せなものです。もしも大学院で阿部千春さん、曾山和彦さんと出会わなかったら、私は教育カウンセリングの深さに出会えていたでしょうか。教育カウンセリングに触れ直すたび、私はお二人との出会いに導かれたことを心から感謝します。お二人と一緒に色々な学会に出かけ、刺激を受け、そして秋田県教育カウンセラー協会を立ちあげたあの日につながり、今日を迎えられていること。この出会いの道は、國分先生の撒いてくださった出会いの種が花咲く道であったように思えてなりません。学びとは、おもしろくてためになるもの。その実感を作ってくださったのは、まちがもなく國分先生ご夫妻でした。先生からいただいたこの喜びを、仲間につなげていきたいです。

今、私は秋田県教育カウンセラー協会のよき仲間と共にあります。先生が種を撒いてくださったその道が、今後ともさまざまなことを吸収し続けられるような柔らかな土壌であるために、自分ができることを一歩ずつ続けていきます。幸せな出会いの種蒔きをしてくださって國分先生。今はみんなを見守り、私たちの歩み続ける道を照らしてくださっていることと 생각합니다。どうぞこれからも、私たちの一步を励ましてくださいように。

國分先生、本当にありがとうございます。

國分先生を偲んで

秋田県教育カウンセラー協会 理事

木村 優子

(元 横手市立横手南小学校 教諭)

國分康孝先生、秋田の養成講座での控室で久子先生と水戸谷支部長と三人で終活話をされ、大笑いしたことを覚えていますか。お三人とも本心本気のユーモアで…。戦前戦後の話から老いのお話まで同世代ゆえ楽しく談笑されていました。そして支部長と互いの健勝と責任ある立場での健闘を祈り、これが最後と固い握手をしてお別れしたあの日が今も目に浮かびます。その後、水戸谷支部長が旅立ち、國分先生は支部長への弔意とともに設立当時のメンバーに励ましの言葉を下さいました。私はその言葉でとうに忘れたと思っていた胸のもやもやが一気に払拭され一点の曇りのない心の青空を迎えるとは夢にも思いませんでした。空高く吹く風のように自由に闊達な魂から私の心を救ってもらったように感じ、先生の大きさにふれた気がしました。お別れはさみしいですが、どうかこれからも高き処よりお見守り下さい。 合掌

コーヒーカップの思い出

秋田県教育カウンセラー協会 理事 佐藤 健吉
(秋田市立河辺中学校 教諭)

先生に初めてお会いしたのは2001年、仙台での養成講座でした。コーヒーカップの深さは何を示しているのか。休憩時間にも関わらず、講師控室に阿部千春先生と二人で押しかけて行きました。自己紹介の後、「コーヒーカップの深さは何を表しているのですか」という私の質問に、先生は笑顔で「お前なあ、これは・・・」(お前とっていただき、うれしく思いました)と私のノートにコーヒーカップの図を描き、こうおっしゃいました。「これ(深さ)は、潜在意識のところまでだ。無意識の領域は扱わない。」私の疑問は見事に氷解しました。休憩中にも関わらず、初対面の私に笑顔でしかも丁寧に対応してくださった先生。私の教育カウンセリングの勉強は先生との出会いから本格的に始まりました。先生のように、周りに安心感を与えつつ依存の対象になれるよう精進したいと思います。ありがとうございました。

國分康孝先生を偲んで

秋田県教育カウンセラー協会 会計長 高橋 智子
(秋田県立湯沢高等学校 教諭)

「こんな方法があるなんて！」教員1年目、初任者研修でSGEを初めて体験した時の衝撃は今でも忘れられません。そんな折も折、本協会役員の淡路亜津子先生からご紹介いただいたのが、國分先生のご著書『エンカウンターとは何か』でした。

最初の勤務校である雄物川高校では、SGEによる心の教育をもとにしたキャリア教育である「パスカルタイム」を淡路先生が立ち上げ、私もたくさんのことを学ばせていただきました。教員はやりがいのある仕事ではありませんが、悩みと葛藤が付きものです。教員になりたての頃は特に「自分には向いてないのでは」と落ち込むことがありました。SGE、そして「育てるカウンセリング」との出会いがなければ、ここまで教員を続けて来られなかったのではないかと思います。「courage to be」。國分先生にご著書に書いていただいた言葉が、いつも私の背中を押してくれます。心から感謝申し上げるとともに、ご冥福をお祈りいたします。



「一度の出会いから多くの学び」

秋田県教育カウンセラー協会 監事 藤谷 淳一
(秋田県立横手支援学校 教諭)

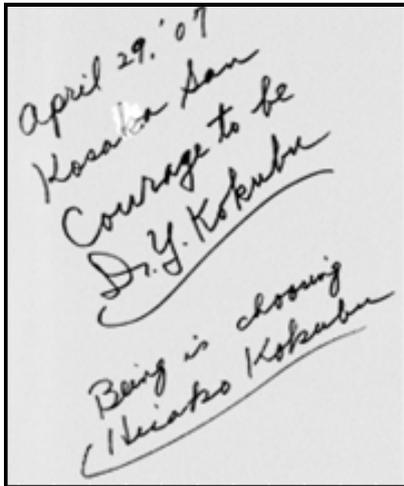
「上求菩提 下化衆生」というお釈迦様の言葉があります。どこまでも自分という人間を向上させていくこと、その自分をもって人のために尽くしてゆくという意味だそうです。まさに日本の教育界で「上求菩提 下化衆生」を体現されてこられたのが、國分康孝先生だったのではないかと思います。

國分先生に初めてお会いした時の圧倒的な存在感を今でも忘れられません。オーラや人間性が溢れ出るといえるのは、こういうことを言うんだろうなと肌で感じました。そして、懇親会の席で、勇気をもって國分先生に話しかけ、今の自分に足りない諸々のことについて助言を求めた際に、「睡眠時間を削って勉強することだね。」とさらりとおしゃられた、子供のような笑顔と、高齢になってもさらに学びを追及する姿には、尊敬という言葉では言い表せられないものがありました。

どうぞ安らかな旅立ちでありますよう、心からお祈りいたします。

私の心の指針「予防・開発志向」「発達課題を助ける」

秋田県教育カウンセラー協会 事務局員 小坂 信子
(元 日本赤十字秋田看護大学 准教授)



「教育カウンセリング概論」のご講義を受け、心に響き、そして今も大事にしている言葉です。

私は、その当時学生部を担当し、また看護学実習前後で種々の内容で悩む学生を教育現場で何とかしたいと思い、入会しました。これらの言葉を念頭におくことで、方向性を見失わずに学生と対峙できました。

先生のご講義は2007年盛岡会場で受講しました。グレーのスーツを着てパンパンパーンとリズムカルに話される先生でした。また二重の大きな目を覚えております。そのとき『構成的グループエンカウンター事典』を購入いただいたサインです。この事典は理論的背景・ねらい・準備から介入まで具体的

に記載されており、夢中になって目をとおしたのを覚えております。國分先生、ほんとうにありがとうございました。



國分先生の思い出

秋田県教育カウンセラー協会 事務局員 伊藤 忠宏
(秋田市教職員組合 書記長)

國分先生と初めてお会いしたのは、総合教育センターの研修員でカウンセリングを学び始めた年の夏でした。研究発表の指導をしてくださっていた曾山先生から、青森の養成講座に國分ご夫妻がいらっしゃるのので参加してみたいと声をかけていただいたことがきっかけでした。

夏の青森でお会いした國分先生は、体調があまりすぐれないとのことでしたが、サスペンダー姿で、にこやかに講義をしてくださいました。少しふくよかな体型でしたので、私は世界中の人から長く愛されているムーミンをイメージしたことが思い出されます。講座終了後の懇親会でも、参加者の方に笑顔で話しかけられていました。初対面の私が秋田から来たことを告げると、「秋田といえば、曾山さんや阿部さんががんばっているね。」と話のきっかけを作ってください、細やかな心配りに感激し、私もこのようにありたいものだと感じたものです。

学生時代に意欲的に学んだと言えない私ですが、國分先生の著書からはたくさんのお話を学ばせていただきました。カウンセリングの技術や理論、子どもとの接し方、さらには教師としてのアイデンティティーも遅ればせながら獲得できたように思えます。教師として生きるための基礎となった教育カウンセラー協会、たくさんのお話を提供してくださった國分先生に感謝しつつ、ご冥福をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

國分康孝先生との思い出

秋田県教育カウンセラー協会 事務局員 渡部 昌平
(秋田県立大学 准教授)

協会に入会したのは十数年前、院生時代にお世話になった岸俊彦先生（現相談役）がいらしたことがきっかけでした。総会後の懇親会で國分先生にご挨拶したところ、「労働省（出身）ならば」と同じく労働省出身の大先輩、当時理事をされていた木村周先生（現相談役）をご紹介いただき、木村先生とはその時以来のおつきあいになります。その後、宿泊エンカウンターで一度ご一緒させていた程度なのに、学会の大会では「おお、渡部くん、頑張ってるか」とお声をかけていただいたこともあり、厚生労働省のキャリア・コンサルティング研究会で改めて一緒にお仕事をやる機会があり、打ち合わせのために帝国ホテルのロビーでコーヒーを一緒させていただいたことは良い思い出です（あの時のコーヒー代は高かった（泣））。私は直弟子でも孫弟子でもなく、國分先生は雲の上の存在だったので、仕事関係以外では自分から近寄ってお話することはあまりありませんでしたが、今となってはもっとたくさんお話すれば良かった、と後悔の念で一杯です。宿泊エンカウンターでつけたペンネームに「そういうふうにつけろと言った訳じゃないのだけどなあ」とご指摘を受けたり、「よし、君はこれからはキャリアの道を行け」とおっしゃっていただいたり、かなり以前のことなので正確ではないかもしれませんが、國分先生からおっしゃっていただいたことはしっかり覚えています。翻れば学生時代に國分先生の論理療法の本を読んだあたりが、私のカウンセリングへの興味の萌芽だったと思います。こうして偶然にも國分先生とのご縁をいただけたこと、私のような者にも気さくにお声をかけてくださったこと、今でも本当に感謝しています。

「カウンセリングの本質」

秋田県教育カウンセラー協会 事務局員 淡路亜津子
(秋田県立湯沢翔北高等学校 教諭)

私が直接受けた國分先生のカウンセリングの教えは、「どんなにいろいろな人から話を聞いてもらっても、教えてもらっても、自分が納得できないと、いくらカウンセリングを受けてもだめなんだ。」という言葉でした。

これは國分先生と個人的に話をさせてもらった平成16年の冬の事です。ある病気を患い、心身のダメージが大きかった私に、阿部千春先生が研修会の昼休みに國分先生ご夫妻と話ができるよう計らって下さいました。その時、久子先生からは、「有縁を度す」ということばをいただきました。そして、その後、國分先生から「ちょっと下へつきあえ。」と言われて、玄關でたばこを吸いながら、「これは久子には言うなよ。(たばこを吸っていること)しかられるからな。いいか、カウンセリングってのはな、俺が思うに、・・・」と前書のことばをおっしゃいました。そして、残ったたばこを私に渡して「これ処分しておけ。」と言われ、今でもこの日の記念にそのたばこを持っています。その後、自分が納得できる考え方に出会い、いつもの自分に帰ることができました。むしろ、その後の自分は、納得解を探して I a m O K ! でいられるようになっていたと感じます。

18年前にSGEと出会い、SGEのワークショップや講演会などで國分先生の教えをたくさんいただいて今の私があるわけですが、あの時の國分先生との出会いは格別です。カウンセリングの本質と先生の思いを直接聞くことができたことは、一生の宝物です。先生の教えを、教員として、また自分の人生に生かして生きていくことをお誓いし、最後のお別れとさせていただきます。國分康孝先生、本当にありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。

SGEの求めること

- ① “Courage to be.”
「存在への勇氣」(他者の自由を奪わない限り、ありたいようなあり方をせよ) ありたいようなあり方ができない(自己不一致)のは、「人が私をどう評するだろうか」という失愛恐怖があるからである。それゆえ、「千万人といえども我行かん」という気概が湧いていること、これが *Courage to be.* という。
- ② “I want to be myself.” (ホンネで生きたい)
“To be cured is to be myself.”
(癒やされるとは自分自身になりきることである)
- ③ “Being is choosing.”
(他人のせいにするな。死ぬも生きるも、笑うのも、自分の肝=自己選択・自己決定ひとつである)

(國分カウンセリング研究会「SGEリーダーの常識」の冊子の原案は阿部千春・スプリングにより作成され、國分康孝先生と片野智治先生が加筆修正したものである。)

◆ 追悼文 ◆

水戸谷貞夫代表の示唆するもの

NPO 日本教育カウンセラー協会
会長 國分 康孝



秋田県教育カウンセラー協会代表・水戸谷貞夫先生（1927・7・20～2016・4・13）と初めてお目にかかったのは1995年ごろである。文部科学省への「相談指導教諭」設立提案書作成・提出の関係者としてであった。そのご縁で、

1999年に日本教育カウンセラー協会（JECA）を設立して間もなくのころ、秋田県の支部立ち上げをお願いした。

それゆえ「お疲れ様でした」スタイルの追悼文ではなく、後続の人々へのメッセージを彼の代弁者として語りたい。

○ JECA をサポートしてくださる方々に感謝

一つ目のメッセージ。私の見るところ、水戸谷先生はエスタブッシュメント（体制側）の出身である。県教育委員会指導主事、秋田大学附属中学校副校長、文部省教科調査官、秋田県退職校長会会長などの経歴からの私のイメージである。

ところが、JECA を支援するために、文科省の高級官僚（教え子）を紹介するとか、文科省への働きかけのタイミングを助言されるとか、國分の叙勲を申請してはどうかなど、折りにふれ「脱エスタブッシュメント」の智恵と勇気を示す方であった。私との違いは、人の悪口を言わないことであり、教育カウンセリング以外の方々の考えを取り入れたほうがよいと語られたこともあるそうだ。猪突猛進型ではなかった。

私の結論は、野党たる JECA をサポートして下さる与党の方々に感謝したいということである。そして2017年のいま、少しずつ野党から脱却しつつある。これもお伝えしておきたい。

○人を育てること

二つ目のメッセージ。水戸谷先生は、医師・官僚・政治家であった後藤新平の言葉、「金を残して死ぬ者は下だ。仕事を残して死ぬ者は中だ。人を残して死ぬ者は上だ」がモットーのようであった。それゆえ、研修会・養成講座のあと、運営関係者一人一人にわざわざねぎ

らいの便りを出されるのが常であった。

それも紋切り型の礼状ではない。その人のよかった点をほめるとか、自分の所感を述べるなど、人を育てる示唆に満ちていたという。研修会や養成講座では、事務担当者「ぼくがここで番をしているから、あなたは講義を聴きに行けばよい」と気遣う先生であったとも聞く。

○「わりがったな」

第三のメッセージ。水戸谷先生は私の見るところ、協会の超自我であった。若い先生に立ち居振る舞い（例：名刺交換の作法）を指南し、協会の目標を示された。それゆえ、親近感はあるが、馴れ馴れしい言動をするメンバーはいなかった。

彼と初対面の教員が、汗びっしょりになるほど重みのある人であった。それゆえ、「先生、そりゃ無理ですよ」と気楽に言えず、我慢して（素直にならざるを得なくて）協力した人もいるのではないかと危惧している。

これは私個人の体験から推察したのである。私の周りの協力者に昔の教え子がいるが、この人たちが「仕方ないな。昔お世話になったゼミの先生だからな」と我慢しているのではないかと妻によく言われているのだ。水戸谷先生にも同じようなことがありそうな気がする。水戸谷先生に協力した方たちに、先生に代わって「すまんかったなあ」と秋田弁で言いたいところである。

水戸谷先生は秋田弁で語ることはなかったそうである。きくところによると、「わりがったな」となる。「わり」には、謝罪と感謝の意味が含まれているそうである。

どうでしょうか、水戸谷先生。私の代弁は。

【ご著書】

- ・『講座 進路指導（1）進路指導の理論』多賀出版（1983）
- ・『進路指導の技術（2）講座 進路指導』多賀出版（1986）
- ・『進路指導の運営 講座 進路指導』多賀出版（1987）
- ・『進路指導の実務 24 のポイント技術（進路指導主事編）』多賀出版（1987）
- ・『21世紀の進路指導事典』ブレーン出版（2001）

